

大学図書館の現状と課題

早瀬 均

名古屋大学附属図書館事務部長

はじめに

大学は、学生・研究者のために学術情報資源を蓄積し、提供する責務を有し、それを担うのが大学図書館である。インターネットとWebを中心とした情報通信技術の発達と他方学術雑誌等の高騰と経費及び人員の縮小が進むなかで、急速に変化しつつある大学、学術研究、教育のあり方に対応した図書館サービスと図書館運営が求められている。大学図書館は、学術情報の流通基盤の中核として、大学の情報戦略に参画し、大学を巡る諸課題に対処するために、その資源、サービスをより一層傾注する必要がある。

1 大学図書館の現状

1) 大学図書館設置の法的根拠及びあり方

学校教育法施行規則

大学設置基準

大学図書館基準

2) 大学図書館の実態(大学図書館実態調査等より)

管理運営状況(職員数、資料費、施設)

蔵書構築状況(図書・雑誌の購入数)

利用状況(開館時間、貸出、レファレンスサービス、ILL等)

3) 大学図書館に関する施策の経緯

学術情報システムと大学図書館

大学改革と大学図書館

学術コミュニケーションと大学図書館

2 大学図書館の課題

1) 多様化するコレクション

電子資料の拡大

学術研究コンテンツ(電子ジャーナル、文献データベース等)の整備

・安定的な財源の確保と合意形成(再)

・新たな価格モデルの模索

大学が生産・保有する情報資源

2) 電子図書館的機能の強化・拡充

学術ポータル構築

- ・多様な情報資源と電子サービスの統合

- ・学内他システムとの連携

学術機関レポジトリ構築

- ・研究成果・教育活動の成果のデジタル保存と情報発信

- ・学術コミュニケーションの改善

- ・取り組み例(CURATOR, HUSCAP, AKF...)

相互運用性の重要性(メタデータ、プロトコル)

3) 大学図書館の組織再編

- ・全学的な図書館組織

- ・他の情報サービス部門等との再編統合

4) 大学図書館の評価

大学全体の評価

- ・年度計画実績報告書(国立大学法人)

- ・機関別認証評価

パフォーマンス測定

利用者の満足度調査(LibQUAL+, DigiQUAL)

5) 大学図書館職員のコンピテンシー

『中間報告』の問題提起

研修プログラムの再構築

- ・自己研鑽と専門職研修(情報リテラシー教育担当者研修、デジタルライブラリアン養成等)

6) 大学図書館の相互協力

相互協力事業の綻び

- ・目録所在情報サービスの課題

情報資源共有の推進(相互貸借、Global ILL Framework)

電子ジャーナル・コンソーシアム

大学図書館の協力組織

7) 地域貢献・地域連携

大学図書館の地域開放

公共図書館等との連携

8) 著作権対応

インターネット時代の著作権

- ・集中管理団体との契約・合意

9) 学術コミュニケーションへの関与

大学の研究成果の保存と発信

・セルフアーカイビング

学術コミュニケーション活動の支援

・SPARC, SPARC/JAPAN

・オープンアクセス

3 変化に対応した運営方策

1) 従来方式からの脱却と変革

2) 方策の明確化とビジョンの共有

3) 拡大する業務と業務の縮小方策

拡大する業務

・学習・教育、情報リテラシー教育支援

・開館時間の拡大

・サービス対象の多様化

・ネットワークサービス

業務の縮小方策

・重複の除去

・業務の外部委託

・セルフサービス(利用者始動のサービス)

参考資料

1) 法令・基準等

・『学校教育法施行規則』(文部省令第11号 昭和22年5月23日)

・『大学設置基準』

(文部省令第28号 昭和31年10月22日 最新改正平成10年3月31日)

・『大学図書館基準』(大学基準協会 昭和27年6月17日 最新改正昭和57年5月18日)

・『文字・活字文化振興法』(平成17年7月29日)

(昭和27年6月17日 大学基準協会 最近改正昭和57年5月18日)

2) 建議・答申等

・『21世紀の大学像と今後の改革方策について 競争的環境の中で個性が輝く大学』(大学審議会答申 平成10年10月26日)

・『科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について - 「知的存在感のある国」を目指して - (答申)』(学術審議会 平成11年6月)

- ・『大学図書館機能の強化・高度化について(報告)』(学術審議会学術情報資料分科会学術情報部会 平成5年12月16日)
- ・『大学図書館における電子図書館機能の強化・充実について(建議)』(学術審議会 平成8年7月29日)
- ・『学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)』(科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 情報科学技術委員会 デジタル研究情報基盤ワーキング・グループ 平成14年3月12日)
- ・『学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について(報告書)』(文部科学省研究振興局情報課 平成15年3月17日) (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/material/kaizen.pdf>)
- ・『学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について(中間報告)』(科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会 平成17年6月28日)

3)文献

- ・"Collection & access for the 21st-Century scholar: changing roles of research libraries"
(ARL bimonthly report 225), 2002 (<http://www.arl.org/newsltr/225/main.html>)
- ・Jackson, Mary E., "The Advent of portals", *Library Journal*, Vol. 127 Issue 15, p36, 2002
- ・Jackson, Mary E. et al. "Assessing ILL/DD services: new cost-effective alternatives", ARL, 2004
- ・逸村 裕、竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』勁草書房 2005